



染付鉄砂窓絵花鳥文壺 朝鮮時代 18世紀前半 40.3×31.7cm

# 柳宗悦と朝鮮の工芸

陶磁器の美に導かれて

2022年 9月1日(木) - 11月23日(水祝)

□主催・日本民藝館 □後援・駐日韓国大使館 韓国文化院、国外所在文化財財団、朝日新聞社

日本民藝館

<https://www.mingeikan.or.jp/>



日本民藝館の創設者である柳宗悦(1889-1961)は、朝鮮陶磁器との出会いを契機にして朝鮮時代(1392-1910)の工芸美に注目し、その透徹した審美眼によって優れた蒐集を成しました。そして、その美に触発されて数々の論考を著し、展覧会を通して朝鮮工芸の魅力を世に問い続けてきました。

柳は晩年に「かく朝鮮の器物を好きになったのは、私にとって種々生涯の方向を定める事にもなり、うたた感慨が深い」(「四十年の回想」1959年)と述懐しておりますが、柳は民衆の日常品のなかに驚くべき美の姿を見出し、それが契機となって後の民藝美論の思索へと深められていきました。

ちなみに柳が活動していた当時の朝鮮は、1910年の韓国併合によって日本の統治下におかれ、同化政策が強引に押し進められていました。しかし、柳はそのような時流に抗うように朝鮮民族の生み出した陶磁器や絵画、彫刻、建築などに独自の美と価値を見出し、朝鮮の人々に対しても深い親愛の情を寄せていったのです。そして、1919年3月1日に起きた民族独立の運動にも理解を示し、さらには民族固有の文化を守るためにペンを持って闘ったのであります。

今年、そんな柳の朝鮮文化に対する自らの敬愛の想いを披瀝した、最初の著書『朝鮮とその藝術』が刊行されて100年にあたります。美への喜びを通し「互いを認め合い、平和に生きる」ことを呼びかけたこの本の意義は、けっして色褪せるものではありません。

この節目の年に企画された本展では、当館の所蔵する朝鮮陶磁器を中心とする朝鮮時代の諸工芸品の中から優品約300点を選び、一堂に展覧します。暮らしを彩った陶磁器、絵画、木工品、石工品、金工品などに表れる、民族固有の独自の造形美と深い精神性をご堪能ください。



1



4



2



5



3



6

〔記念催事〕

本展を記念し、日本民藝館が所蔵する柳宗悦の朝鮮関連資料に関する展覧会とシンポジウムを、韓国文化院(東京都新宿区四谷4-4-10)において開催します。なお、本催事は国外所在文化財財団(韓国)の助成による研究成果を公開するものです。詳細はHPをご覧ください。

『朝鮮とその藝術』刊行100周年記念  
**柳宗悦の心と眼**  
 ー日本民藝館所蔵 朝鮮関連資料をめぐって  
 2022年9月14日(木)～10月1日(土)  
 韓国文化院ギャラリー MI

\*シンポジウム: 柳宗悦の心と眼 ー国外所在文化財財団助成による研究成果発表  
 2022年9月17日(土) 13:00-17:00 韓国文化院ハンマダンホール

〔関連展示〕「静中動: 韓国のスピリットをたどるー開かれた陶のアート」 2022年9月17日～12月18日  
 滋賀県立陶芸の森陶芸館(陶芸美術館) 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7 Tel.0748-83-0909

- 1. 螺細花鳥文箱 朝鮮時代 17世紀末期 8.8×26.6×26.4cm / 2. 染付鉄砂葡萄栗鼠文壺 朝鮮時代 17世紀末期～18世紀初期 34.9×28.5cm / 3. 炉 朝鮮時代 19世紀 20.8×28.5cm / 4. 刷毛目茶碗 朝鮮時代 15世紀後半～16世紀前半 6.6×17.0cm / 5. 漆塗網代張筆筒 朝鮮時代 17世紀末期～18世紀初期 147.5×90.8×48.5cm / 6. 文字図 孝 朝鮮時代 19世紀後半 77.0×39.0cm ※全て日本民藝館所蔵

□10:00-17:00(入館は16:30まで) □月曜休館(9/19、10/10は開館し、翌日休館) □一般1,200円 大高生700円 中小生200円 □西館公開日(旧柳宗悦邸)・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで) ※変更が生じる場合がございます □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □TEL.03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<https://www.mingeikan.or.jp/>

# 日本民藝館

